



3月23日(金)午後7時より当会館において『ゆめじゅく会』(瀬戸会館活動連絡協議会)の平成23年度「総会」が開催されました。瀬戸会館を会場にして活動する教室・グループや地域自治会の皆様が参加され、今年度の活動について総括を行うとともに、来年度の活動について審議いたしました。

平成24年度役員陣容も整い新しい一年をスタートいたします。地域とともに活動することを基盤に、より多くの人との交わりをもち笑顔が広がることをめざして活動することが確認されました。

**\*就任のご挨拶** ゆめじゅく会 会長 小野 博 この度のゆめじゅく会総会におきまして、会長に再任されました。昨年度は、『であい展』をはじめ各行事におきまして、会員、地域の皆様方および職員の方々の多大のご協力、ご支援をいただき活動を進めることができました。有難うございました。

今年度も各サークル、教室および地域との行事が活発に展開されるよう役員一同頑張る所存でございますので宜しくお願い致します。また、当館が出会いとふれ合いの中から人権啓発の場として更なる発展をされますよう祈念しご挨拶と致します。

「ゆめじゅく会」総会



瀬戸会館だより  
平成24年4月号  
新居浜市瀬戸会館  
〒792-0821  
新居浜市瀬戸町7-30  
E-mail  
seto@city.niihama.  
ehime.jp  
TEL 0897  
41-5859  
(FAX 兼用)

4月公演  
回転木馬  
おはなし会  
4月25日予定  
10:40~11:00  
瀬戸児童館



本気でにげたよ！ 消防訓練

2月23日(木)、今年2回目の消防訓練を瀬戸児童館との合同で実施しました。瀬戸会館調理室からの出火を想定し、初期消火、消防署への通報、避難、確認等の訓練でした。火災発生時の連絡を受け、児童館で活動していた児童もお母さんと一緒に急いで避難。最近再び東日本大震災の状況を報道で見聞きする関係からか、参加した皆さんには以前にも増して引き締まった表情に見えました。また、消防自動車や消防士さんの装備について説明を受けたあと、火災現場でのパフォーマンスを見せて頂きました。実際にホースを伸ばして放水準備完了までの迅速な動きにはどっと歓声が沸き、その重装備のまま突っ走って見せるスーパー消防士上野さんのスピードにもビックリです。このあと順番を待って、消防士の帽子をかぶってみんなニコリ！



ありがとう！うれしい花の贈り物

2月17日(金)、泉川小学校4年生の皆さんがリヤカーに乗せて、さくら草やパンジーが植えられたプランターを届けてくださいました。早速、瀬戸会館の玄関周辺に配置いたしました。瀬戸会館がパッと明るくなったようです。来館される多くの方から、「エエねー」「きれいねー」の言葉をいただきます。お日さまに照らされて、いつもこどもたちのはじける笑顔と明るい声が花々から聞こえてきそうです。ありがとうございました。

平成23年度「社会教育部会」の開催

3月12日(月)、愛媛県人権教育協議会新居浜支部による「社会教育部会」が市庁舎内の会議室で開催された。各校区におけるお茶の間人権教育懇談会や人権啓発講座の実施状況をもとに今年度の反省や平成24年度の事業計画が話し合われた。それに先立ち、新居浜市民生委員児童委員の高津英正氏により「生きる」と題した講演が行われ、自らの半生を振り返りながら在家僧侶の道を選んだ思いや今に残る差別事象へのかかわりなど、穏やかな口調の中にも聴き手の心に鋭く迫る内容であった。人の心に巣くう差別心、その現実を直視し解消への思いを新たに示した講演であった。



## 人権あらかると

### 部落問題と向き合う若者たち(2)

(内田) 坂東さんは部落問題との出会いはどんなものでしたか。

(坂東) 私も全然覚えていません。私の家は、解放運動をしているおばちゃん、おっちゃんたちが仕事帰りに寄るとい、たまり場みたいな家でした。そういう家で生活していたので、家の中はいつも議論しているし、部落の人たちのことを「地区の人」「ムラの人」、外の人たちのことを「一般の人」と表現しているのです。小さいころから私らは「一般」ではないんやという捉え方はありました。それが差別ということと結びつくのは、たぶん、子ども会活動の中で、ときどき差別についての学習会みたいなのがあったりとか……。徐々にとかいうのがあると思うんです。

で、高校生くらいになって、私の両親が部落出身じゃないということに、あるときふと気がついたんです。あれっと思って、両親は部落じゃない所から杭ノ瀬という部落に移り住んできたということに、ある時気づいて、「えっ、なんなんこれ」という感じになったんです。子ども会でも「リーダーとして先頭切って行け」という感じで育てられてきたのに。

(内田) お父さんお母さんが移り住んできた理由というのは。

(坂東) 父親が学生運動に参加していて、そのころマイノリティというか被差別の立場にある人たちから学んでいくということに惹かれていたので、部落解放運動に参加を شدした。そのときに、そんなために大学やってるのところがうと言って親から勘当され、杭ノ瀬のおっちゃんおばちゃんたちに世話になって住むようになりました。母親も、看護師で、劣悪な環境だった病院の中で組合活動していて、その中で部落解放運動に出会ってきたみたいです。

『部落解放』2012年 増刊号より 内田龍史 尚絅学院大学講師

坂東 希 大阪大学大学院 NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝  
紙面の都合で一部割愛させていただきました。

### 4月の主な行事予定

4月11・25日(水) — 移動図書館 (14:00~14:40)

4月11日(水) — 人権のつどい日 (19:30~21:00) ビデオ「風邪と大地と梨の木と 第2章カナエの結婚」の視聴と話し合い

\*インターネット初心者講座 生徒募集 インターネットを利用して、電子メール、音声通話・テレビ電話、ブログや旅先の情報収集に宿泊予約ほか

### すがすがしい卒業式

3月16日(金)は泉川中学校で卒業式が行われた。国歌斉唱のあと、ピアノでショパンの「別れの曲」が流れるなか「卒業証書を授与される者、第壱万九百五拾六号、飯田悠衣」と最初の生徒が読み上げられる。続いて順次生徒達が壇上に上がり証書が手渡される。

校長 藤田裕彦さんは、式辞で「私の好きな言葉の中に『桜梅桃李』という言葉があります。「さくら」「うめ」「もも」「すもも」は、それぞれの特徴を生かして美しい花を咲かせます。みなさんも一人ひとりが、必ず美しい花を咲かせる力をもっています。」とはなむけの言葉を贈った。そういえば式場正面右手の壁には、額に『百花繚乱』の大きな文字が見える。

在校生からの送辞を受けて、卒業生代表の古川美紀子さんは答辞で共に卒業する友に語りかけ、「私たちの周りにはどんな時も仲間がいたね。心を一つに行事に取り組んだこと、休み時間のたわいのないおしゃべりやお腹が痛くなるほど笑ったこと、悩みをうちあけたこと。そんな当たり前のような毎日が、今となってはかけがえのない宝物です。」と充実した泉中時代を振り返り、83名が巣立っていった。

### 「人権のつどい日」 にひろう

3月11日(日)

「のらねこ学館」代表の塩見志満子さんの講演があった。愛媛で一般的に同和教育が取り組まれ始めた頃の、南予の高校での体験から話が進んだ。



年に1回聴く同和教育講演会の感想文に、ある2年生男子生徒がワラバン用紙の真ん中に、1行だけ、大きな文字で、「おもしろなかった」とだけしか書かれてなかったという。

そのいきさつは——被差別部落に生まれた彼にとって、図書館で部落問題を独習した彼にとって、講演内容の水準、当時の学校のおざなりな取り組み等が許されないものであったに違いない。

また、障がいのある人への思い、「思いやり」と「思い込み」という言葉をキーワードに、日常の在り方にも注意を促した。



### 新生劇団「はぢめました」設立

新居浜市において恒例のイベントとして定着している「ハートFULL新居浜」は先日、盛況のうちに開催された。市民にとって、人権啓発劇を上演するこの催しは、人権を守る心を自らに問ひかける大切な日となっている。

この度、長年この劇に参加された人たちが劇団「はぢめました」を立ち上げた。今のところ若い人が中心の7名でスタート、泉川公民館で週2回集まって練習をしている。3月17日(土)にお邪魔した時は、21畳の和室で柔軟体操から始まり、台本をみてセリフの練習に移る。途中で、その場面をどうとらえるか、真剣な意見を交わす。でも堅苦しさがなく、楽しい雰囲気。主催する山内貴志さんによると、人権啓発劇だけでなく、あらゆる方向性、可能性を求めて公民館祭りや老人ホームでのイベントに参加するなど活躍の場を広げて、皆さんに喜んでもらえるようになりたいとのことでした。

